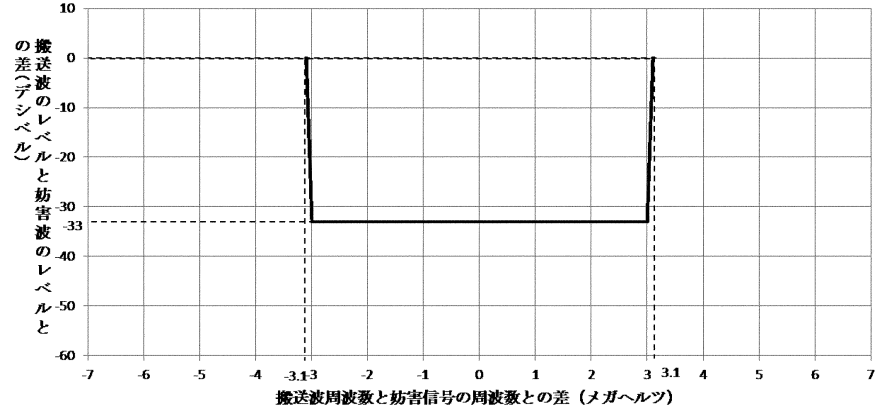
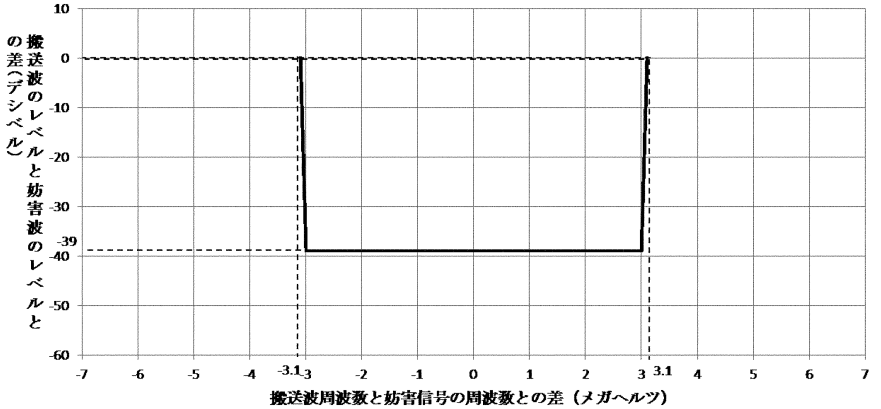
別図第五号②の次に次のように加える。

(3)　搬送波の変調の型式が直交周波数分割多重変調である場合

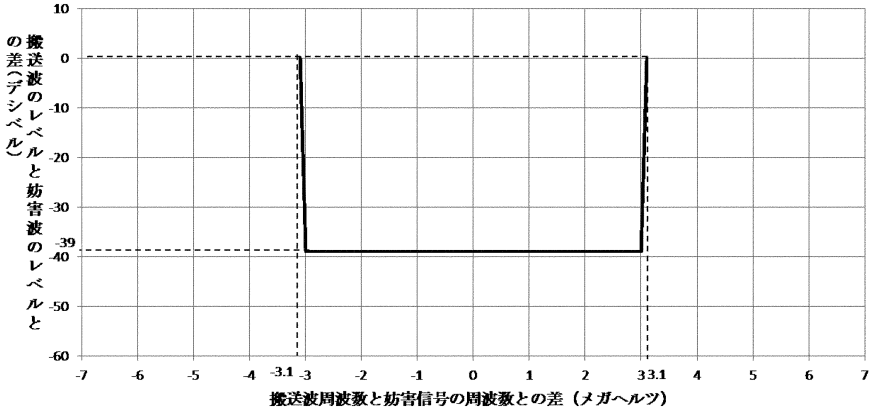
イ　副搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



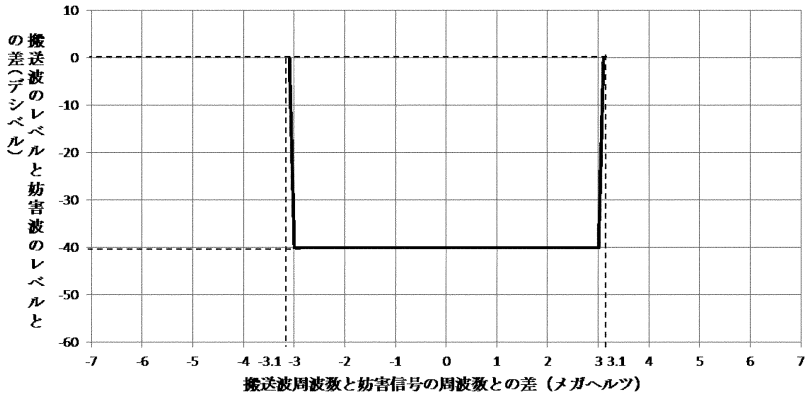
ロ　副搬送波の変調の型式が一〇二四値直交振幅変調である場合



ハ　副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率五分の四の場合

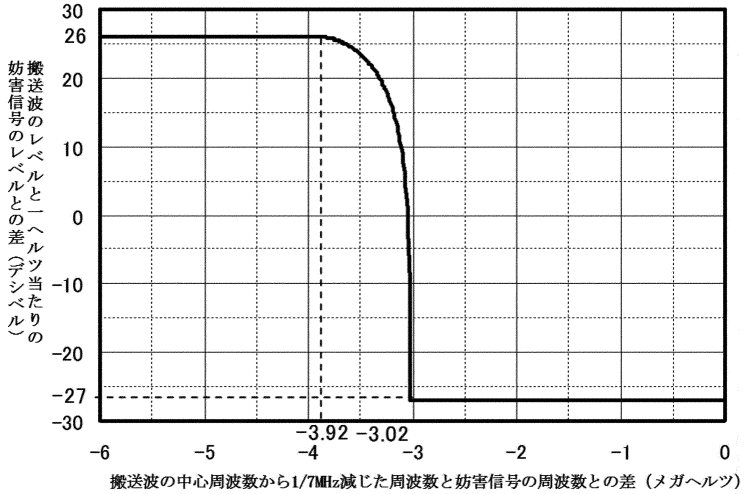


ニ　副搬送波の変調の型式が四〇九六値直交振幅変調であって符号化率六分の五の場合



別図第六号から別図第八号までを次のように改める。

別図第六号　標準デジタルテレビジョン放送方式の下側周波数のスペクトルマスク



注１　一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。

注２　スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数から１／７MHz減じた周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）をf、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）をLとする。

・fが−3.92MHz以下の場合：$L=26$[dB]

・fが−3.92MHzを超え−3.02MHz未満の場合：

$$L=26+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1-\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2\ (f+6)\ -f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}\ [\mathrm{dB}]$$

なお、$f_0=5.057$［MHz］、$\alpha=0.18$とする。

・fが−3.02MHz以上の場合：$L=-27$［dB］